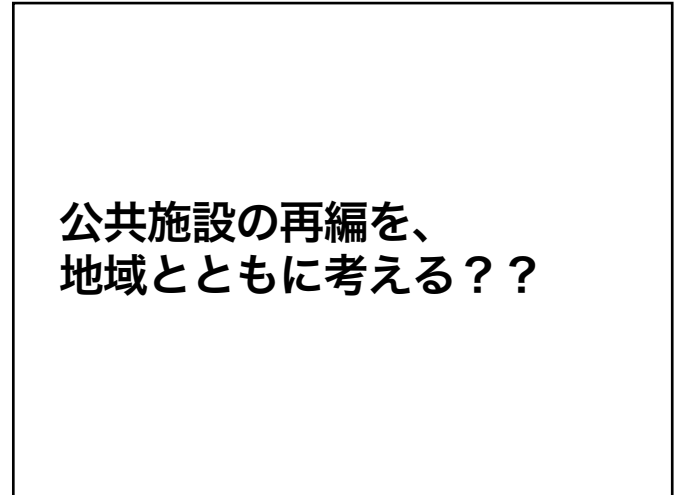




1



2



3



4



5



6

多摩市公共施設の見直し方針と行動プログラムを策定しました（平成25年11月）

[2017年7月11日] ID:129

多摩市では、多摩ニュータウンの開発に伴う急激な人口増加に対応するため、新しいまちに必要な都市基盤（インフラ）とともに、一度に多くの公共施設（建築物）を整備してきました。その結果、今後一斉に公共施設の更新時期を迎えます。しかし、少子化・超高齢社会を迎え、市税収入が減るなど厳しい財政状況の中、公共施設更新のための財源は限られています。今後も公共施設を安全に維持するため、また将来世代の負担を軽減し、健全な財政運営を維持するためには、今から公共施設の見直しを行う必要があります。

結論 『多摩市公共施設の見直し方針と行動プログラム』一斉に、再編計画に向けた再編可能と見られる施設について、概要を

多摩市における「公共施設の見直し方針と行動プログラム」の概要

【目的】 少子化・超高齢社会を迎える多くの公共施設を、更新・リニューアルにより、新しいまちに必要な都市基盤（インフラ）と一体的に整備し、持続可能なまちづくりを実現する。また、市民の生活の利便性を向上させ、まちの魅力を高めること。更新・リニューアルにより、市民の生活の利便性を向上させ、まちの魅力を高めること。更新・リニューアルにより、市民の生活の利便性を向上させ、まちの魅力を高めること。

【方針】 更新・リニューアルにより、市民の生活の利便性を向上させ、まちの魅力を高めること。更新・リニューアルにより、市民の生活の利便性を向上させ、まちの魅力を高めること。更新・リニューアルにより、市民の生活の利便性を向上させ、まちの魅力を高めること。

【行動プログラム】 更新・リニューアルにより、市民の生活の利便性を向上させ、まちの魅力を高めること。更新・リニューアルにより、市民の生活の利便性を向上させ、まちの魅力を高めること。更新・リニューアルにより、市民の生活の利便性を向上させ、まちの魅力を高めること。

【実施スケジュール】 更新・リニューアルにより、市民の生活の利便性を向上させ、まちの魅力を高めること。更新・リニューアルにより、市民の生活の利便性を向上させ、まちの魅力を高めること。更新・リニューアルにより、市民の生活の利便性を向上させ、まちの魅力を高めること。

7

多摩市公共施設の見直し方針と行動プログラムを策定しました（平成25年11月）

良くも悪くも「挑戦的」な計画公表・・・

東寺方地区市民ホール・東寺方老人福祉館 [昭和56年4月建築（東寺方複合施設）]

内容	移転・統合先	年度	その他の取組み内容
具体的取組み	（仮称）東寺方市民ホール・東寺方老人福祉館の統合	29年度	（仮称）東寺方市民ホール・東寺方老人福祉館の統合と併せて、平成29年度以降にコミュニティセンターの建設と併せて、平成29年度以降にコミュニティセンターに統合します。コミュニティセンターまでの距離があるため、複合施設としての機能性を確保し、今後の見直しを行います。跡地は将来の需要に対応するための用途とします。

取組みスケジュール

H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35
調査	市民説明	準備	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施

聖ヶ丘図書館 [平成7年7月建築（ひじり館）]

内容	移転・統合先	年度	その他の取組み内容
具体的取組み	—	未定	本館の整備に合わせて、施設を廃止します。廃止後は、コミュニティセンター内に、図書資料の予約の申し込み、貸出、返却ができる機能を設置します。H29年度以降は、コミュニティセンターまでの距離があるため、複合施設としての機能性を確保し、今後の見直しを行います。跡地は将来の需要に対応するための用途とします。

取組みスケジュール

H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35
調査	市民説明	準備	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施

← 具体的な行動予定が記載されている。市民説明や調整は公表の後に設定されている。

← 図書館は市内7館から3館へ統合・・・？

8

1,2回目は「高齢者視点・子育て視点で考える」、3回目は中心的話題の「図書館を考える」という構成

第1回：高齢者施設

第2回：子育て施設

第3回：社会教育施設（図書館）

テーマ：高齢者施設
 課題：『（仮）健康まちづくりとは？～たれもが健康で、生きがいを持ち、それぞれの幸せを実現できるまちへ～』
 ①課題のポイント
 ・多摩市の高齢化の進展状況、今後想定される課題を知ってもらう。
 ・多摩市各地域の高齢化対策の現状と課題の把握。
 ②課題のポイント
 ・高齢者施設はどのように整備されるか、地域に必要なサービスとは、
 ・地域で暮らしやすくなるためには、必要な機能やサービスとは、
 ・今後想定される生活課題に対して、地域に必要な機能やサービスとは、

テーマ：子育て支援施設
 課題：『（仮）子ども・子育て・わくわくプラン ～ひとりどりの子どもが健やかに成長できるまちを創出して～』
 ①課題の内容
 ・子育て支援の現状と課題について、知ってもらう。
 ・市が取り組む「子ども・子育て・わくわくプラン」について説明。
 ②課題のポイント
 ・『（仮）わくわく子育てしやすいまちにするために、地域に必要なサービスとは？』
 ・子育て支援が地域で安心して子どもを育てられるようになるために、地域に必要な機能やサービスとは、
 ・地域みんなで子どもの成長を見守る環境づくりとして、地域に必要な機能やサービスとは、

テーマ：社会教育施設（図書館）
 課題：『（仮）図書館はどのように運営されている？～図書館の役割～』
 ①課題の内容
 ・現在、図書館全体としてサービスがどう展開しているか、また現状ある課題を知ってもらう。
 ・『読書活動推進計画』について説明。
 ②課題のポイント
 ・『（仮）読書の多摩市の図書館を再考しよう！』
 ・現在の図書館についての現状を再見出し、
 ・図書館全体を考えた場合、必要な機能とは、（どんな機能？どんな場所？）
 ・地域に必要な図書館機能とは、施設としての図書館に求められる役割とは、（どんな機能？どんな場所？）

9

「図書館等社会教育の視点から」回の成果

課題

- 豊ヶ丘 CDの貸出し
- サービスが残れば拠点館だけでいいの？
- 図書館は地域の中心的機能である
- 図書館は身近にあることで重要している
- また、地域の核になっている
- 地域的重要性
- ★アットホーム
- ★サークル活動との連携
- ★子育てでの利用
- ★急ぎの利用
- ★コミュニティセンターの中心
- 安心・安全につながる

図書館の在り方

【補足】複合施設は、色んな世代が交流できる、地域の人のつながりを感じられる施設、多摩市の文化になりつつある

図書館自体

中央図書館が充実すれば ↓	近くにあることが 大切 分散	地域の図書館の複合化
地域図書館が縮小しても良いのでは？	子どもの校区外の図書館を利用するのか	しずかな図書館のニーズがある
本のリサイクル市民をまきこんで工夫 蔵書増	図書館職員を大事にする	図書館へ公民館機能を複合

「地域の核」「コミュニティの中心」・・・『近隣センター』そのもの！

10

多摩ニュータウンの都市計画の考え方

← 東京都、ほか（1983）『多摩ニュータウン』より

↓ 上野淳、ほか（2008）『多摩ニュータウン近隣センター商店街の系譜と現状に関する考察』より

コミュニティ施設や図書館等と商店街のひとまとまりである「近隣センター商店街」が地区の核となっている。

「図書館は地域の中心的機能である」・・・まさに多摩ニュータウンの都市計画そのもの！

まちづくり目線、都市計画目線の大切さ

11

「多摩市公共施設の見直し方針と行動プログラム」を更新しました（平成28年11月）

[2016年12月12日] ID:1926

「多摩市公共施設の見直し方針と行動プログラム」更新について

多摩市を持続可能なまちにいくため、今後の人口減少と急速な高齢化を見据え、公共施設の見直しに向けた平成35年度までの10年間の計画として、平成25年11月に「多摩市公共施設の見直し方針と行動プログラム」を策定しました。策定から3年経過し、これまでの取り組み状況やさまざまな状況変化等を踏まえ、平成28年11月に行動プログラムを更新しました。

たとえば

東寺方地区市民ホール・老人福祉館
 [更新年度]：昭和56年4月[第35年] [延床面積]：市民ホール222㎡、老人福祉館342㎡/1,637㎡]

今後の取組み内容

時点	方向性	移転・統合先	年度	具体的取組み
H28年11月更新	検討	検討	検討	大規模改修時期である平成35年度まで、現機能を維持しつつ検討します。それまでの間、市民や利用者等と対話を行いながら、今後の施設のあり方について検討していきます。

H28年度以降の取組みスケジュール

一歩立ち戻る勇気+着実に一歩進む覚悟！

当時の担当課長曰く
 「考え方」対応の仕方はいろいろある。でも、**きちんと市民と向き合う、議論する。時間がかかっても良い。自分は、その信念は曲げない！**

12

区民とともに考える意味

- 行政という1視点から、多角的な議論へ
 - 住民の「暮らし」の目線で、まちを再確認
 - 行政という1組織だけで考える時代から、多様な主体（住民も、民間事業者も）がまちに関わる時代への移行
- 場合によっては一歩立ち戻るきっかけに
 - 「計画=絶対」ではない
 - いつでも、状況に応じて変化する柔軟性が大切
 - 議論を積み重ねてきた事実も尊重する必要がある。区民として、それを理解することも大切。

13

何を議論する？

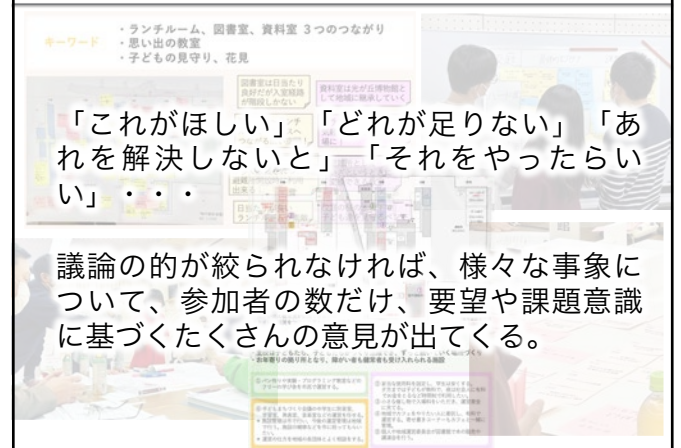
14

ワークショップや市民対話では、多様な意見が出てくる



15

ワークショップや市民対話では、多様な意見が出てくる



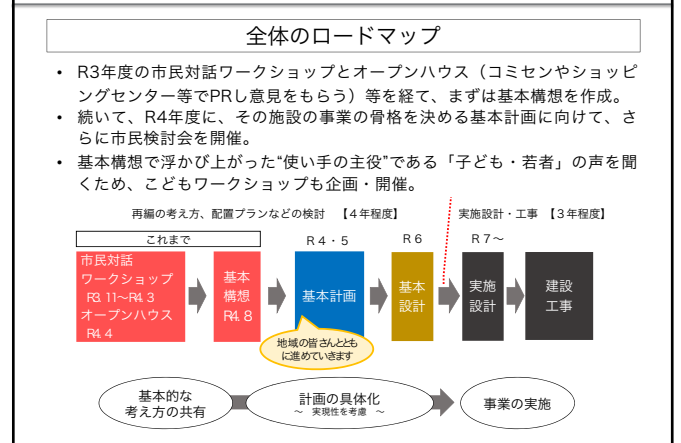
16

相模原市光が丘地区ですすめる「将来の廃校の活用事前検討」



17

当初から市民参画で議論をすすめる。まずは基本構想。



18

議論を経て出てきたキーワードとコンセプト

- 子ども・若者が主役
- 地域の防災拠点
- 療育園とのつながり
- 隣接公民館との連携

19

主役・連携資産・地域の関わり方など、議論の骨格が完成

光が丘地区学校跡施設（青葉小学校）利活用基本構想 (R4, 8)

市民対話ワークショップの成果等を踏まえ、本事業の実現に向けた基本構想として、基本理念と方針などをまとめました。

基本理念 及び 方針 (視点)

再編に向けたキーワード	基本理念	方針	情報等
市民対話ワークショップ	光が丘ランドマーク ～子ども達がつくり、活かし、ずっと使い続けるべき場所～ ～みんなが笑顔になれる場所～	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域とともに子どもを育む拠点として活用します 2. 災害時の拠点として活用します 3. 地域の魅力やゆるやかな繋がりを大切にします 4. 青葉小学校のストックを大切にします 5. 時代に即したやさしい施設にリニューアルします 	再編施設の概要及び機能
オープンハウス			
公共施設マネジメント 運営プラン等の策定計画			

地区の住民、地区の資産を俯瞰して、「誰が主役か」「どんな資産とつながるか」「地域はどう関わるか」、話題の中心の小学校施設の利活用の「ビジョン」を描く。

20

R4年度は「空間の使われ方・ルール・誰が運営？」等を検討

- くすのき等を利用してイノベーションを行う
- 体育館・活動
- ウッドデッキがよい
- 少しミーティングをするのよい
- 体育館を借りて来た人が取り出して気軽に使えるように

21

R4年度は「空間の使われ方・ルール・誰が運営？」等を検討

- どのよう管理を行うか
- 誰が使うか
- 体育館を借りて来た人が取り出して気軽に使えるように

22

議論の『領域』を設定する

- まちのビジョンから語ろう
 - 「施設」という枠からまずは抜け出すべき。人の暮らし、そこにある資産、地域として望む未来を徹底的に議論する。
 - その未来のため、施設が使えるか吟味。使えそうなら、どんな使いかたがあるか考えてみる。
 - その使い方を、自分ならどう支えられるか。
- 場合によっては「任せる」もあり
 - 行政にはとても有能なスタッフがいる。区民だって日々の暮らしがあり、街への関与に割ける時間は少ない。
 - だからこそ「信頼」が大事。そして、任せるなら「失敗」を受け容れる度量が必要。

23

議論の成果は どこに反映される？

24

多摩市旧北貝取小跡地利活用のためのワークショップ

- 市では廃校になった学校施設の暫定利用を認めていたが、施設老朽化に伴い、暫定利用を終了することに。
- 一校だけは市民活動のための拠点として、文化財収蔵機能との複合施設として再整備することに。
- そこで、現状どんな課題があるか、どんな施設の使い方が望ましいか、どんな関わり方が模索できるか、利用団体や周辺住民の意見を聞くことを目的にWSを企画。



25

市民との議論を経て見つかった課題、事業化過程での解決模索



- ワークショップを経て見つかった「これからの課題」
 - 施設利用をどう融通しあうか
 - 荷物や備品保管のルールが必要
 - 団体同士の『つながり・交流』の希薄さ
 - 運営への市民の関与

26

市民との議論を経て見つかった課題、事業化過程での解決模索

- WSを経て見つかった「これからの課題」を、事業展開のどこに反映するか。
 - 施設は指定管理に
 - 指定管理事業者選定の公募要項に「市民や団体が運営に関与する工夫についての提案」項目を記載
 - 市民や団体が互いに議論する「協議会」を設置



27



28

平日の夕方の様子



29



熱心な運営事業者による様々な催しの企画

30

成果の『的』を設定する

- そのワークは、何に反映される？
 - 『領域』を絞った議論の成果を、どこに反映するか。それを示すのは、貴重な時間を割いて議論の場に来てくれる方々への最低限の礼儀。
 - 反映先は様々にある。地域のビジョン、施設利用の構想、整備計画、運営者の選定、施設運営、ボランティア・支援、その後の参画・議論、etc...
- 「計画」よりも「実践」を見据えて
 - 施設整備だけでなく、施設運営への議論も大切。
 - 運営段階を見据えれば、ひとりひとりが関与する余地が大きくなる。つまり「じぶんごと」化の可能性が広がる。

31

住民参画の先にあるもの

32



33



34



35

協働・参画の『先』にあるもの

- 『じぶんごと』と『責任』
 - 「関心」を「関与」へ、それが「じぶんごとにする」ということ。
 - 意見を言う、提案する、参画する、の裏には「責任」が生じる。その自覚を大切に。
- 『ワクワク！』
 - 責任ある仕事のウラに、ワクワクあり。その先に、地域への愛着や誇りが生まれる。
 - ワクワクがある事業の周辺には、人が集まる。仕方なくやる仕事より、ワクワクするプロジェクトをたくさんつくろう！そして、まち全体のワクワク度を上げていこう！

36